

地域会議の開催状況等について

凡例【主な開催内容】

○：事業説明等、◇：支援金や木育事業の選定、◎：実施状況報告、■：現地調査

区 分	委員数	H21年度分 今 回 報 告	H20年度分 開 催 回 数	摘 要
佐 久 地域会議	8名	第1回 6月10日開催 ○、◇	3回	
上 小 地域会議	8名	第1回 6月24日開催 ○、◇	4回	
諏 訪 地域会議	7名	第1回 6月19日開催 ○、◇	3回	
上 伊 那 地域会議	9名	第1回 6月26日開催 ○、◇	3回	
南 信 州 地域会議	10名	第1回 6月15日開催 ○、◇	4回	
木 曾 地域会議	9名	第1回 6月8日開催 ○、◇	4回	
松 本 地域会議	8名	第1回 6月29日開催 ○、◇	3回	
大 北 地域会議	11名	第1回 6月2日開催 ○、◇	3回	
長 野 地域会議	7名		3回	第1回 10月13日開催済（次回報告予定）
北 信 地域会議	8名	第1回 7月14日開催 ○、◇	4回	
計	85名	9会議分	34回	

地域会議開催状況

(注)・各会議の委員は、五十音順・敬称略で記載。◎は座長、□は座長代理。
・主な意見については発言順で、質疑関係は除いて記載した。

平成 21 年 6 月 10 日 (水) **第 1 回 佐久地域会議** (佐久地方事務所)

【会議事項】

- 1 平成 20 年度事業実績
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 森林づくり推進支援金
- 4 意見交換

【出席委員：7名】

- | | |
|---------|----------------|
| ◎ 井出 玄明 | 北相木村長 |
| 小林 弘道 | 長野県経営者協会 佐久支部長 |
| 田中弓美子 | 南佐久消費者の会 副会長 |
| 古越 修 | 佐久森林組合 参事 |
| 山下 昌秀 | 臼田高等学校環境緑地化教諭 |
| 渡辺 正美 | 佐久林業士会 |

【主な意見】

- 子どもたちに木材の一連の変化（立木→丸太→製材）を体験・見学させることは、森林の大切さを理解してもらううえで大切なこと。あわせて木育事業のミニチュアキットを活用すれば効果が上がるのでは。
- 間伐目標の達成は林業従事者の確保が必要。
- 間伐確保には、集約化を先行させる必要がある。
- 事業と人材は一体でなければならず、担い手を確保する必要がある。森林整備のPRばかりではなく、厳しい雇用情勢の中、人材育成にもっと目を向けてもらいたい。
- 条件の厳しいところでは補助の嵩上げを厚くするなど、差をつけるべきではないか。
- 森林税の仕組みが分かっていない方が多い。
- 森林税を納めた証を何か提供できないか。



平成 21 年 6 月 24 日 (水) **第 1 回 上小地域会議** (上小地方事務所)

【会議事項】

- 1 平成 20 年度事業実績
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：8名】

- | | |
|---------|---------------------|
| 上原 栄子 | 青木村農村女性グループ |
| 加々美貴代 | NPO法人やまぼうし自然学校 代表理事 |
| 甲田 圭吾 | 上田教育事務所 主幹指導主事 |
| 齋藤 篤 | 上小木材青壮年団体連合会 会長 |
| 佐藤 文雄 | 上田商工会議所 事務局長 |
| ◎ 竹内 邦義 | 長和町役場 産業振興課長 |
| 別府 基規 | 上小地区生産森林組合連絡協議会 会長 |
| 松沢 康博 | 信州上小森林組合 企画幹 |

【主な意見】

- 松くい虫による被害防止のため、森林税を活用しながら様々な事業に取り組まれているが、今後被害が広がる恐れのあるところには、住民へ正しい情報を提供してもらいたい。
- 今後も松くい虫被害拡大防止のため、地域が協力して取り組むことが大切。
- 学校などで木製の机・椅子の活用が進むよう、さらに軽量化などの改良をお願いしたい。
- 森林税により整備が進んでいるが、事業が終わった地域で、今後も整備や里山を活用した活動が継続されるよう、事業者や地域への支援の継続が大切。
- 地域で生産された木材が利用されるよう、民間の需要拡大だけでなく、公共事業でさらなる活用を進めてもらいたい。



平成 21 年 6 月 19 日 (金)

第 1 回 諏訪地域会議

(諏訪地方事務所)

【会議事項】

- 1 平成 20 年度事業実績
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：6名】

- | | |
|---------|----------------------|
| 大井 明弘 | NPO 法人エコラ倶楽部理事長 |
| □ 小平 榮三 | 諏訪森林組合 理事 |
| 小林 利行 | 県生産森組等団体有林連絡協議会諏訪支部長 |
| 永田 直子 | 消費者団体みずうみ会会長 |
| 細川 忠國 | 諏訪木材協同組合 理事長 |
| ◎ 山田 勝文 | 諏訪市長 |

【主な意見】

- 集約化事業について、諏訪は所有規模が細かいため大変である。最近個人情報保護の関係から、不在村所有者に通知を出すと「なぜわかったのか」と言ってくるという話も聞いている。



【会議事項】

- 1 平成 20 年度事業実績
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 森林づくり推進支援金
- 4 最近の情勢等
- 5 意見交換

【出席委員：9名】

- | | |
|---------|----------------|
| ◎ 植木 達人 | 信州大学農学部 教授 |
| 唐木 一直 | 南箕輪村長 |
| 竹松 杉人 | 南福地森林整備委員会 委員長 |
| 平澤 照雄 | 平澤林産(有) 代表取締役 |
| □ 松岡みどり | K O A 森林塾 |
| 宮崎美和子 | 県女性農業委員の会上伊那支部 |
| 宮島 洋子 | 伊那商工会議所 創業塾卒業生 |
| 森 敏彦 | 上伊那森林組合 参事 |
| 山浦 速夫 | 県経営者協会上伊那支部 |

【主な意見】

- 今まで里山が暗かった状況にあったが、税の活用によって間伐が進み非常に見た目もよくなった。特に獣害について、被害も減ったように思える。事業を実施したところは本当に良かったが、周辺の農地はかえって荒らされると地域の人たちに言われることがある。
- 今残念なのは木材価格の下落。それからたとえ安くてもはければよいが、はけていかないということが大変な課題。間伐材を搬出して土場へ積上げてもそれが出でいかないと次の間伐ができないという状態が続いている。
- 地域で進める里山集約化事業は要望に応じた予算が確保できていないという話だが、やはり境界の確定をまずやらないと動かないということから、最優先の課題として取り組んでほしい。
- 昨年度は税を活用して 250ha 集約化できたが、そのうちの 170~180ha は切捨て間伐ではなく搬出間伐をされている。上伊那地域の皆さんは切捨て間伐でよしとするのではなく、できるだけ出して活用したいという意欲に非常に燃えている地域だと思う。今このような社会情勢だが、エリアを見ながら将来木材を活用できるかどうかとも判断しながら集約化事業を実施してもらいたい。
- 森林所有者が高齢化してくる中で 1 年でも早く集約化、境界確認をやっておかないと山がますます判らなくなる。
- 山からなるべく間伐材を搬出した方がいいだろうということで搬出しているが、実際どのくらい搬出されているのか、県民の皆さんにもわかるようにするとういと思う。
- 今、低コスト林業とか、作業道開設とか言われているが、使う機械によって経費も違うのに実際の精算数値などについてほとんど提示されていない。数値的なものをなるべくわかりやすい形で示してもらえるといいと思う。
- 木材がどのように生産され販売されているかなどについて、全体にオープンにされていない。
- 生産コストがいくらだったら森林整備でペイできるか、低コストの単価というのはどのくらいのものなのか、本当に皆さんが求めている単価なのかということ明らかになるといい。



そうすると我々もそれに向かって挑戦しようという気になるが、木材価格はどんどん下がっていく。

- 本当に高性能林業機械で低コスト化を目指すことだけがはたしていいのか。県民税を使うのであれば、森林ボランティアの方々の中にも搬出したいという人もいる。決して彼らは低コストではないが、彼らの生きがい、やりがい、伐った材は使いたいんだというような気持ちが非常に強い。そういった意味では、材を出せる簡易な搬出システムのようなものを提案するとか、あるいは身近なそういった材をうまく流すような仕組みづくりなど、広がりを持たせることも大事なこと。
- 木材を利用するところが安定してこない、間伐を実施する環境ができて、大きな動きになってこないと思う。
- 国有林からまだ1万㎡出てくる。それと里山から出てくる材をタイアップしようとしてもきつい。県民税で一生懸命間伐して、ペレットや薪ストーブに使ってもらったりしても、量が決まってしまう。それ以外に大口需要というのは先が見えていない。経済低迷化の影響も出てきている。
- 森林整備というのは作業道をセットで考える必要がある。作業道のつくり方も研究の余地がある。作業道は10年後の事業展開に必ず生きてくる。
- 森林を散策するのを楽しみにしている住民も結構いる。森の中の広いところにはベンチを置くとか、そんなことも木育の一環としてできるのかなと思う。
- 委員になってから1年経つが、実際のところ森林税が県民の方の間でどのくらい周知徹底できているかというのは、いつも疑問に思っていて、今日も傍聴席にどなたもいらっしゃらないなど、すごく意識が薄いと思っている。林務部や上伊那地方事務所のホームページを見れば、税のことをきちんと書いてあったりするが、林業に関わっていない方からは森林税の話は出てこないで、広報普及啓発費の中に、県民にもっとわかりやすいものを取り入れてほしい。こういうふうの間伐が終わったとか写真を使うのが効果的ではないか。
- 身近な山主さんと話をすると、自分の山の木を使いたいけれどどうやって使ったらいいかわからないという方が結構いらっしゃる。その一部で自分の山の木で自分の家を建てたいと工務店に相談したら、そんなことしたら倍になっちゃいますよとかそっけなく断られ、普通に外材で建てたとかいう話を聞く。
- 私も委員になって森林税のことを一生懸命PRしようと思って話をしているが、実際に森林税を使って何かしたいといわれたときに、予算の枠がある中で、森林税だけでは難しいといわれたりする場合もあるので、一般の人にとってはとても遠いのかなど感じている。一般の人向けにする必要があるのかどうか分からないが、一方で隠れたニーズというのはあるのではないかと感じている。工務店への働きかけなどで、所有者と家とがつながるのではと思う。
- 自分の山の木を伐って自分の家に使いたいという方が結構増えてきている。全部を自分の山から出して使うのではなく、1本2本どこかしらに使いたいとか、玄関の柱に使いたいというお客さんが結構いる。そういう仕組みづくりができてくると、非常に木の使い道が拡大し、ベースがしっかりしてくる。
- 木材のセミナーを開催し、森林所有者さん宛にご自身の山の木を使いませんかと問いかけその内容をPRして、そこに山づくりを入れていきたいと思う。
- 木材の活用事例をうまくPRしていけば、ある工務店に言われてあきらめてしまう人が、県の資料でこういうのを見たというような、ちょっとしたことかもしれないが、そういうところから弾みがつくのでは。

【会議事項】

- 1 現地調査
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：8名】

- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 遠藤 寛子 | 飯伊森林組合総務課指導企画担当 |
| <input checked="" type="radio"/> 大蔵 実 | 伊那谷の森で家を作る会代表 |
| 小澤 千亮 | 飯伊木材協同組合理事長 |
| 小林 正春 | 南信州広域連合事務局長 |
| 沢柳 俊之 | 地域ぐるみ環境 I S O 研究会事務局 |
| 寺岡 義治 | 森林環境インストラクター講師 |
| 平栗 雅代 | 飯田エフエム放送(株)パーソナリティー |
| 村澤 崇 | 林業家 |
| 矢澤由美子 | 県地球温暖化防止活動推進員 |
| 山田 庄治 | 下伊那郡町村会事務局長 |

【主な意見】

- 高齢化が進んでしまって、森林組合の作業班に頼るとい時代が、ますます強くなっている今、技術者集団育成に相当力を入れていかないと将来やっていけないと思う。私達の村の急峻地帯においては、道路整備が進んでいない為、現場まで行くのに 2 時間は掛かる。そういった所をいかに解消していくかという事を、特に下伊那は、こういう機会に強く訴えていかないと、本当に山へ入って行く人達が少なくなるのではないかと心配になる。今若い皆さんが離れてしまったらどうしようもなくなってしまふ。こういった事をこの機会に強く表に出していきたい。
- 森林税を頂いて整備してみたけれども、次の事をやはり考えていかないと。森林組合の道路環境整備、これに尽きるのではないかと考えている。市町村によっては色々地形の違い、行政の考え方も違うのが、組合の体質、執行体制の強化に尽きるのではないかとと思う。
- 全県的に啓発的な事業にもう少し力を入れてくれるとも思う。確かに森林への還元も必要だが、地域の方達に森林税について理解をしてもらうためにも啓発の環境づくりが大切で、木育事業にはもう少し手厚く予算を確保してほしい。
- 地域の山をどのように管理し、利用していくのかを地域の人たちが明確にすることが、現場を管理する者にとって大事だと感じた。
- 森林税は、地域の皆さんに、こんな里山の森林整備に利用できるのだと PR していく必要があると思う。
- かつての里山の風景に戻るまで支え続けられえるかどうか大きなポイントであり、1、2 年事業を行った現場を見た他の地域の人たちが、成功事例として判断するであろうかそのきっかけ作りに失敗すると、税金の無駄遣いという評価にしかならないと思う。森林税は里山に人が入るきっかけ作りの手段になると思う。



- 私もPRが必要かなと思っている。森林税ってこんなところに使われているんだよねと、事あるごとに発信していきたいと思うので、情報があったら教えていただきたいと思う。
- 竹林整備は一過性で終わらせてしまうと、近いうちに元に戻ってしまうので、経過をメモしておく必要があると思う。森林税が個人財産の管理のためだけに使われているのではない事を、啓発事業として地域の人達に理解してもらうために、森林税を使った現場を案内して森林税への理解を深めていきたいと考えてる。
- 里山へ是非子供を連れていきたいと思う。新鮮な色々な発見があって子供にとっては、楽しく面白くて、また、学びの場所にもなるのではないのでしょうか。事業が進む中で何か一つまた違う発信の仕方があると感じたので、早速ラジオでお知らせをして、何度も繰り返して里山整備について発信していきたいと思う。
- 国会の予算委員会で、林業についてかなり熱心に語る議員が多くなった。天龍村の急峻地帯で熊の被害問題について知事と討論してみたいと考えている。大きなスギやヒノキが枝打ちをされていたが、私は無理して、大きな樹は避けたほうが良いと思う。打つのであれば的確な時期、技術力も配慮して行うべきだと思う。
- 昨年と比較すると「森林づくり推進支援金事業」の事業内容がバラエティーに富んでいる気がする。一年間経過して、内容が理解されてきたのかなと思う。今年になって、森林税に対する関心が薄れた感じがするので、この会議を通じて税について再度PRをしたいと思う。また、「木育推進事業」を山の近くにある学校に限らず、街場の学校にもこの事業をいかに取り入れてもらったら良いかをPRする必要があると思う。
- 地域の人達が、森林税に対して興味を持つ事は、山に対して興味を持つ事に繋がりので、もっと地域の人達にPRしていきたいと思う。

平成 21 年 6 月 8 日 (月) **第1回 木曾地域会議** (木曾地方事務所)

【会議事項】

- 1 平成 20 年度事業実績
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：7名】

- ◎ 浦沢 英一 木曾郡森林組合長会長 (木曾森林組合長)
- 大橋けい子 上松町特産品開発センター利用組合 組合長
- 黒田仁左衛門 木曾団体有林連絡協議会 会長
- 田上 正男 木曾郡町村会 上松町長
- 巾崎 理一 林業経営(長野県指導林家)
- 深澤 衿子 木曾すんき研究会 副会長
- 松越 勝人 元王滝村産業課長

【主な意見】

- 去年は会議の中で松くい虫・鳥獣被害の状況を勉強させていただき、森林税は必要であるし、有効に県全体で使っていただきたいと思う。
- 昨年から勉強させてもらいながら、自分の地域でも事業を実施したとことで関心をもって地域を見られるようになった。また、モデル地域の設定で県民に理解される形で進められていると思う。昨年同様、各地区の現地を見させていただけるとありがたい。



- 私の住む王滝村も税活用事業により整備され、見た感じが良くなった。非常に有意義な税金なので、うまく活用すれば大変効果があると思う。
- 昨年は、郡下全体のモデル地区を見学させていただいた。税事業は結果的に地域住民に刺激を与え、関心を持ってもらったということで成果があったと思っている。今年も地域住民として成果が上がるよう協力させていただきたい。
- 地域会議の場に参加させていただきうれしく思っている。農林業全体が大変厳しい状況の中で、県民の皆さんの山づくりをバックアップしてくれるようになりよいきっかけになったと思う。昨年モデル地区をやっていただいた成果等これから皆さんで検証しながらより効果的な対策を講じなければならないと思う。
- 森林税は山を持っていない人たちに関心を持っていただくという点で大変効果があったと思う。今後の要望として特に治山事業等について、スキー場及びその周辺やそこへ行くまでの途中の整備をやっていった方がいいと思う。また、モデル団地の看板について、現在設置してあるものは少し見づらいので、今後配慮いただきたい。間伐材の利用について将来拡大していきたい。
- 団地の近くにはイノシシの獣道があり、獣が一番利用しているところが整備の区域の設定から外れてしまった。区域の設定には猟友会の意見も聞いて実施した方がよいのではというのが一点。また、区域の奥に藪地があるので続きを拡大して行なえるよう希望したい。
- 木育推進事業にも期待している。やはり子どもたちに山に足を運んでもらいたいので、各町村でそれぞれ受け入れていただけるとありがたいと思う。

平成 21 年 6 月 29 日 (月) **第 1 回 松本地域会議** (松本地方事務所)

【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成 21 年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：8名】

- | | |
|--------|------------------|
| 大月 公男 | 安曇野市商工会事務局長 |
| 大月 國晴 | 松本林業士会会長 |
| ◎ 菅原 聰 | 信州大学名誉教授 |
| 関森 省吾 | 筑北村長 |
| 滝沢 和子 | 松本市消費者団体連絡協議会長 |
| 西村いそ子 | 松本フォレストレディクラブ会長 |
| 向井 清 | 松本広域森林組合 代表理事組合長 |
| 若林 茂孝 | 間伐推進員 |

【主な意見】

- 県民全体の方々が森林税の使い方を見ているのだから、山を丁寧にきれいにするという方針で進んでほしい。面積のことばかりいうのではなくて、質のこと、本当に良い間伐をやって地域を良くするというに徹してほしいと思う。
- 今回の整備事業は間伐が主体だが、ある程度枝打ちもやっていかないといけない。良質材に



ならないし、見栄えもよくない。国道沿いは道路管理者の所管であり、森林の中がきれいなくても道路際は藪の状態になっている。全体がきれいに整備できなかったのは、林務と国道との連携がないためでは。

- 里山集約化事業について、これをやらないと次へ進まない。もっと予算をつけてがんばってやるわけにはいかないのか。
- 集約化を進めるためには、市町村や森林組合の協力も必要。他所から行った人が地元で話しをしても、話しが通じないのではないか。地域のまとめ役となる人材をどうやって育てていくかが重要。
- 単に施業の集約化ではなくて、経営までまとめていくという考え方でやらないと続かない。個人では将来も山の手入れができないと思う。まとめてやっていかなければならないということを、市町村の方にも理解していただかなければならない。
- 不在村者の森林は県が整備してから、後で精算するということはできないのか。強制的にやることは難しいのか。
- 技術者の育成では、山の経営ができる技術者がほしいことが一つ。もう一つは、作業道をどうやってつけるかによって、森林の価値がまったく変わってくるので、道の技術者を育成することである。いろいろな技術について総合的にやっていただきたい。
- この地域は、上高地などを控えているので、森林は景観としても美しくなければいけない。県民は、木材の生産だけでなく、そういう山づくりも期待している。
- 木育推進事業で昨年度の松本市の保育園でやった、そこにあった木を伐って、その場所でベンチをつくるというようなことは、子どもたちにとって非常によいことだと思う。単に木と触れ合うだけでなく、その木は地域で育ったものであるということがわかるのでよいと思う。
- 例えばアカマツなどを倒して、時間はかかるが、乾燥して、これはあそこの木で作ったものであるという全体的な流れを見てもらった方が、林業というものを理解してもらえて、木育という活動になると思う。

平成 21 年 6 月 2 日 (火) **第 1 回 大北地域会議** (北安曇地方事務所)

【会議事項】

- 1 平成 21 年度事業計画
- 2 意見交換

【出席委員：8名】

- | | |
|---------|----------------|
| ◎ 浅見 昌敏 | 大北木材協同組合理事長 |
| 荒山 雅行 | 荒山林業 |
| 香山 由人 | 大北地方林業研究グループ会長 |
| 川上 起源 | 大北地区林業経営者協会副会長 |
| 郷津喜久代 | 拇池高原観光協会会長 |
| 小林 三郎 | 小谷村長 |
| 菅沢 広人 | 長畑森林整備協議会会長 |
| 傳刀 明 | 大町温泉郷観光協会事務局長 |
| 平林きわ子 | 大町市商工会議所婦人部会長 |
| □ 嶺村 和徳 | 大北森林組合代表理事組合長 |
| 山内香代子 | 遊企画代表 |

【主な意見】

- 私の場合は、林業の仕事をしているので予備知識があるが、一般の森林税を払っている県民には分かりにくいと思う。元々、補助金のメニューが複雑であり分かりづらい。森林税活用事業は分かり易い事業の方がいいと思うので、平成22年度に向けて事業メニューの絞込みをしながら、一般の人に分かり易いことが重要だと思う。
- 森林整備を推進するうえで、地域の団地化が進めづらいと関係者から聞く。市町村長が施業勧告できると聞いているが、実際は中々できないとのこと。県民から森林税を集めて、森林所有者の負担は軽減措置されているにもかかわらず、森林所有者は分かっていない方が多く、森林整備をするとお金が係ると思っている方が多いようだ。県が主体となって、森林所有者へ施業勧告のような働きかけが出来ないかと思う。
- 森林整備後の間伐材の活用に苦慮している。有効利用できないか考えているところ。森林整備後の間伐材の整備という事も重要な問題と思う。大北地区全体でバイオ燃料の検討をしたらどうかと思う。チップから燃料への活用やバイオエタノールなども考えなければいけないと思う。地球環境の面からも重要であり、県民税の取組みの中にも含める事も必要であると考えるのでお願いしたい。
- 森林整備は順調だが作業道が少ない、間伐材利用とあるが、作業道が少ないので搬出が出来ない場所が多い。作業道を積極的につくって欲しい。



平成21年7月14日（火）

第1回 北信地域会議

（北信地方事務所）

【会議事項】

- 1 税活用事業の実績見込み
- 2 平成21年度事業計画
- 3 意見交換

【出席委員：6名】

- | | |
|---------|------------------------|
| 川久保あけみ | みどりの少年団北信地区協議会長 |
| 笹岡 洋一 | 指導林家 |
| ◎ 竹節 義孝 | 山ノ内町長 |
| 原 修一郎 | 北信州森林組合代表理事組合長 |
| 宮崎 正毅 | NPO法人北信州の森林と家をつなぐ会代表理事 |
| 山崎 義雄 | 瑞穂地区有害対策協議会長 |

<市町村、森林組合の担当者もオブザーバー出席し、各事業の進捗状況等について補足説明>

【主な意見】

- 木育推進事業は、未来を見据えた時、教育活動の一環として体験する事は、子供たちの未来、個々の生き方の中で大切な活動であり、このような活動をとおして森林に関心を持つよう、各校においても積極的な取組ができるような仕組みを検討願いたい。



- 本年、学友林の森林整備を実施する。平成 22 年度、小学校の統合もあり、全校で間伐材を使用した思い出づくりを行いたい。
- 間伐を推進するうえで最大のネックは間伐材の活用である。地域材を地域内で使用する取組が必要である。
- 昨年度実施された里山整備は、大面積で実施され生活地域からも見え、地域住民から好評である。活用事業による森林整備の更なる推進をお願いする。

(以上、平成 21 年 6 月から 7 月に開催された 9 地域会議・9 回分)